



# クローバー動物病院

だより 第12号



今回は、ネコの尿スプレーと対処法についてです。

## ネコの尿スプレー行動 (=尿によるマーキング)

### 1 尿マーキングの特徴

#### ①テリトリー宣言

猫同士は尿の臭いから性別、年齢、ホルモン状態、攻撃性、健康状態などが分かると推測されているので、他の個体は、相手次第ではその場所を避け、**むだな争いを回避**することができます。

#### ②発情期のアピール

元来単独行動をとる猫同士が、発情期に互いに引きつけあうために、尿マーキングを行います。したがって、発情期には**メス猫の尿マーキング**も目につきます。

#### ③不安による行動

他の猫によりテリトリーが侵されるという予感（例：野良猫の声がした場合）や来客、引越し、模様替えなど**日常生活のあらゆる出来事は猫に不安を与える可能性があります。**

※ 猫はテリトリー内や不安の原因に尿スプレーをすることで対処しますが、不安が慢性化すればするほど、尿スプレー行動も持続し、頻度が増します。  
一方、同居猫の数がある一定のレベル以上になると逆にスプレー行動は抑制されます。これはおとなしくして目



立たなくすることで競争相手の注意が自分に向けられるのを防ぎ、競争の少ないテリトリーを利用し、生き延びようとする戦略だと考えられています。

#### ④その他興奮など

## 2 尿マーキングへの対処法：尿マーキングの原因を軽減する

①テリトリーを確保すること（特に室内飼育の場合）

②ホルモンをコントロールすること

去勢や避妊手術の有効性は認められますが、それはホルモン性のマーキングの場合に限られます。

③不安を除去、軽減すること

不安の原因が明らかでない場合（例：子供や犬の存在、飼主さんが叱ることなど）はそれらから猫を離すことで対応できますが、引越しなど除去できない原因の場合、あるいは、不安の原因が明らかでない場合にはフェロモン剤や薬物を使用することもあります。

#### ※フェロモン剤

フェロモン剤を1日1～3回（同居猫の数による）約30日間、尿スプレー箇所やスプレーしそうな場所に噴霧して使用。ただしフェロモン剤使用前に尿スプレー箇所を洗浄しておく必要があります。この場合消臭剤などで化学的な香りをつけることは、猫に新たな不安を引き起こす原因ともなるので、使用を避け、アルコール系や酵素系の洗剤の使用がすすめられます。

※猫の不安を軽減する上で猫のフードを入れた食器や猫のベッドを尿スプレー箇所に置くことも効果が認められています。